

令和元年5月23日

保護者様

千葉大学教育学部附属特別支援学校
校長 細川 かおり

平成30年度学校評価アンケートの結果について

初夏の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃より、本校の教育活動へのご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

平成30年度学校評価についてですが、3月にアンケート結果を報告させていただきましたが、5月11日に行われました、千葉大学教育学部附属学校学校評議員会での評価を踏まえたものを、再度、ご報告させていただきます。

※(A=そう思う)(B=まあまあそう思う)の合計数値を肯定的評価として、自己評価をしています。

I 情報発信・連携について

(自己評価)保護者の皆様からは、全ての項目で85%以上の肯定的評価をいただきました。項目1につきましては、昨年度から、保護者への学校の教育目標や学校経営の重点目標の説明の機会を増やした結果、昨年度は7ポイント、今年度は2ポイント上がっていることから、次年度も学校目標や学校運営の重点目標を説明する機会を確保し、これまで以上に丁寧な説明を心がけていきたいと思っております。それ以外の多くの項目でも肯定的評価は上がっています。項目3については、保護者のA評価が、昨年度よりも4ポイント上がっており、今後も、ホームページを活用した発信を続けていきます。しかし、項目4については、昨年度と比べ、肯定的評価が4ポイント下がり、A評価では10ポイント下がっており、D評価が0ポイントから4ポイントになっていることは真摯に受け止め、これまで以上に保護者の声に耳を傾け、連携を図りながら、教育活動や学校運営を進めていきたいと思っております。

(学校評議員)

学校教育目標は、学校のビジョン、ミッションを明らかにするもの。その重要性を改めて確認して欲しい。教職員、児童生徒、保護者、地域が共有していることが重要。1年間のゴールを示しているものであるが、どれだけ意識できているのか、具体的なゴールとその道筋を示すことができているか、また、それを5年先を見据えて取り組み、積み重ねていけると良い。

II 環境・安全について

(自己評価)項目6については、4ポイント上がっていますが、毎年、厳しい評価をいただいています。老朽化により、校舎の改修工事が決まりましたが、当初の計画通りに進めることができず、児童生徒には、心理的、物理的負担をかけていることを真摯に受け止め、大学との連携を一層密にしながら進めていきたいと思っております。項目8については、ここ数年、意識をして力を入れてきたこと点で、97%と高い評価をいただきました。項目10については、A評価は13ポイント上がりましたが、肯定的評価としては、4ポイント下がっています。学校における、安全管理や危機管理は非常に重要なことであることから、今回の評価を受け、再度、学校危機管理マニュアルの見直しや、PTAとの連携による災害時等への対応について、スピード感を持って進めてまいります。

(学校評議員)

附属が大切にしてきたことは「できるだけ本物を」である。学校全体が教材であるので、今後も教室環境等さらに充実させていけると良い。

Ⅲ 年間計画・行事について

(自己評価) 項目11について、保護者の評価ではA評価は10ポイント上がりましたが、肯定的評価としては、4ポイント下がっており、C評価が9ポイント上がっています。しかし、職員の評価は、肯定的評価で17ポイント上がっていることから、学校の考える無理のない、適切なものと子ども、家庭が考えるものとの意識の違いがあるとも取れる結果になりました。項目4との関係も考えられることから、具体的にどこに課題があるのかを、分析し改善をしていきたいと思えます。項目12、13ともにポイントは上がっていますが、今後も内容を精選し、子どもたちが「何を学ぶのか」を明確にした取り組みを進めていきます。

(学校評議員)

生徒が何を考え、どう製品作りに取り組むか。歩く合宿についても同様である。何を感じ、何を思って歩くのか、ねらいを明確にして取り組むことが重要であると考え。本当の意味での「児童生徒が主体」を目指して欲しい。

Ⅳ 教育活動について

(自己評価) 保護者はほとんどの項目で、90%以上の肯定的評価をいただきましたが、項目16では、4ポイント下がっています。キャリア教育全体計画の作成など、卒業後を意識した教育実践を進めていますが、この評価からもさらに推進していくことが必要であることが分かりました。項目19については、保護者は6ポイント上がり、職員は100%となりました。これは、本校の特色である合わせた指導の取組が、研究を通して職員の理解、内容の深まり、広がりによる結果ではないかと推測しています。しかし、項目21では、保護者は2ポイント下がっています。これは、項目4との関係も考えられます。職員も2ポイント下がっていることから、結果を真摯に受け止め、保護者への説明をよりしっかりできるように職員の研修も計画しながら、対応していきたいと思えます。項目22については、昨年度同様低い評価ですが、保護者の肯定的評価は9ポイント上がっています。授業の中では映像の活用等にも取り組んでいますが、より個々にあった活用方法の模索をする必要はあると考えています。

(学校評議員)

- ・小学部の「遊びの指導」において、発達段階を捉えて指導に生かすことは良いことである。
- ・ICTについて、今あるものを使って、何をして、それによってどんな成果が出せるのか、それを明確にして実践しなければ活用度の向上は期待できない。これまで大切にしてきた「できる状況づくり」のためにタブレットは活用できるのではないか。
- ・児童生徒が何を感じ、何を思ってその活動に取り組んでいるかが大切。例えば作業学習において、質は高いが実は教師が仕上げを行っているというのでは意味がない。
- ・新学習指導要領に示されたものを具現化するための先進校としての具体的な実践を示しているのか。これらのことに応えることが求められていると考える。障害のある児童生徒が「附属に入りたい」と思う学校になること、それが結果的に県内特別支援学校をリードする学校、働き方改革にもつながると思う。

Ⅴ 職員について

(自己評価) 全ての項目で、保護者、職員ともに90%以上の肯定的評価をいただきました。しかし、項目23、24では、C(あまり思わない)、D(そう思わない)が合わせて4ポイントあることは、真摯に受け止め本校の職員に対する信頼や期待に応えられるよう、職員一人一人が心がけていきたいと思えます。項目25の教職員の言葉遣い・態度、マナーについては、お互いに声をかけたり注意したりすることができる職場の環境づくりが必要であると考え、取り組んできた成果から、一昨年度から連続してポイントが上がっているものと考えています。

VI 児童・生徒について

(自己評価) 項目26は、肯定的評価では、4ポイント上がっていますが、D評価があることを真摯に受け止め、児童生徒の全体像、年間を通しての様子をしっかりと見取っていきたいと思います。また、項目27では、肯定的評価が2ポイント下がっていることから、今後も子ども主体の学校生活づくり、教師と子どもがともに活動し、「感じ合い、わかり合い、支え合う」学校を目指していきます。

(学校評議員)

「○○な子を育てたい」だから「□□をする」。それをしっかり説明することができること、それを聞いて保護者が納得できることが重要であると考えます。先進的な実践ではそれを図式化している学校(都内の小学校など)もある。

※学校評議員は、「千葉大学教育学部附属学校学校評議員規程」により、教育に関する理解があり、識見を有する者のうちから、校長の推薦により、学長が委嘱した方々です。

酒井 昌史	様	(千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課長)
堀子 榮	様	(千葉県特別支援学校長会会長・千葉県立特別支援学校流山高等学園校長)
林 充	様	(市原市教育委員会教育長)
菅野 敦	様	(東京学芸大学教育実践研究支援センター教授)
成田 智子	様	(千葉市手をつなぐ育成会会長)

平成30年度 学校評価アンケートのまとめ

(1) 対象者：保護者（回収率94.2%） 教職員（97%）

(2) アンケート項目：保護者28項目 教職員32項目 ※1から28項目までは共通

以下、質問項目及び結果を示す。

【評価基準】 A=そう思う B=まあまあそう思う 肯定的評価
C=あまりそう思わない D=そう思わない 否定的評価

I 情報発信・連携

番号	評価項目	回答者	A	B	C	D	無回答	H30	H29
								肯定的評価	肯定的評価
1	保護者に、学校目標や学校運営の重点目標をわかりやすく伝えている。	保護者	51%	39%	6%	4%		90%	88%
		職員	24%	70%	6%	0%		94%	89%
2	保護者に、各種たよりや連絡帳等で、必要な情報や子どもの様子をわかりやすく伝えている。	保護者	71%	25%	4%	0%		96%	92%
		職員	64%	36%	0%	0%		100%	100%
3	ホームページや学校公開（土曜スクール、学校見学会、オープンスクール）、公開研究会等で学校のことを外部に発信している。	保護者	53%	41%	6%	0%		94%	90%
		職員	67%	30%	3%	0%		97%	96%
4	担任や学校は、保護者の声に耳を傾けて、連携を取りながら、教育活動や学校運営を行っている。	保護者	58%	31%	6%	4%	2人	90%	94%
		職員	52%	48%	0%	0%		100%	100%
5	学校は、関係機関（大学、地域の自治体や学校等）と連携が図られている。	保護者	43%	46%	8%	2%	1人	89%	86%
		職員	30%	55%	15%	0%		85%	78%

II 環境・安全

番号	評価項目	回答者	A	B	C	D	無回答	H30	H29
								肯定的評価	肯定的評価
6	学校内は、美化・整理整頓が行き届き、清潔感がある。	保護者	23%	55%	22%	0%		78%	74%
		職員	12%	67%	18%	3%		79%	64%
7	子どもが安心して学べるよう、安全な校内環境になっている。	保護者	31%	59%	10%	0%		90%	84%
		職員	24%	58%	18%	0%		82%	85%
8	校内に掲示されているお子さんの作品や活動の様子は、分かりやすいものになっている。	保護者	67%	31%	0%	2%		98%	94%
		職員	45%	52%	3%	0%		97%	96%
9	子どものけがや病気が発生した時の対応は適切に行っている。	保護者	69%	27%	2%	2%		96%	94%
		職員	48%	52%	0%	0%		100%	82%
10	学校は、災害への対応や、事故を防ぐための対応など、安全管理や危機管理に努めている。	保護者	51%	41%	8%	0%		92%	96%
		職員	52%	39%	9%	0%		91%	96%

III 年間計画・行事

番号	評価項目	回答者	A	B	C	D	無回答	H30	H29
								肯定的評価	肯定的評価
11	年間の計画は教職員、子ども、家庭にとって無理のない、適切なものになっている。	保護者	62%	24%	13%	0%	1人	86%	90%
		職員	15%	73%	12%	0%		88%	71%
12	魅力のある学校行事（運動会やふよう祭など）が実現されている。	保護者	63%	27%	10%	0%		90%	88%
		職員	31%	66%	3%	0%		97%	89%
13	入学式・卒業式など儀式行事は、趣旨に合った適切なものとなっている。	保護者	71%	25%	2%	2%		96%	92%
		職員	39%	58%	3%	0%		97%	96%
14	各学部の行事は、子どもたちの発達段階に応じた適切なものとなっている。	保護者	71%	20%	9%	0%		92%	92%
		職員	48%	52%	0%	0%		100%	100%

IV 教育活動

番号	評価項目	回答者	A	B	C	D	無回答	H30	H29
								肯定的評価	肯定的評価
15	教育活動は、子どもたちが自分から目当てと見通しをもって意欲的に取り組める内容となっている。	保護者	74%	20%	6%	0%		94%	96%
		職員	42%	55%	3%	0%		97%	96%
16	各学部の教育活動は、卒業後、自立し、働く活動を中心とした社会生活につながるような内容となっている。	保護者	45%	43%	12%	0%		88%	92%
		職員	48%	52%	0%	0%		100%	96%
17	教育課程の中心となっている、遊び、日常生活の指導、生活単元学習や作業学習は、児童生徒の成長に十分効果を発揮している。	保護者	57%	35%	8%	0%		92%	92%
		職員	58%	36%	6%	0%		94%	96%
18	進路に関する情報の提供や研修会は十分に行われている。	保護者	51%	43%	6%	0%		94%	84%
		職員	39%	58%	3%	0%		97%	96%
19	遊び、生活単元学習、作業学習は、他の取り組み（例えば、自立活動や職業/家庭）と連携が図れている。	保護者	50%	37%	10%	2%	1人	87%	81%
		職員	27%	73%	0%	0%		100%	89%
20	「元気なからだを作るため」の体育的な取り組みや、安全・衛生面の関心態度形成・意識付けに関わる取り組みは、適切に行っている。	保護者	51%	45%	4%	0%		96%	92%
		職員	24%	70%	6%	0%		94%	89%
21	個別的教育計画（個別の指導計画、個別的教育支援計画、個別の移行支援計画）について保護者と十分話し合い、経過や結果について丁寧な説明をしている。	保護者	65%	27%	8%	0%		92%	94%
		職員	36%	58%	6%	0%		94%	96%
22	パソコンやタブレットなどのICT機器を活用した取り組みは、有効に行われている。	保護者	25%	43%	18%	14%		68%	59%
		職員	15%	76%	9%	0%		91%	89%

V 職員

番号	評価項目	回答者	A	B	C	D	無回答	H30	H29
								肯定的評価	肯定的評価
23	教職員は、熱意と情熱をもって教育活動にあたっている。	保護者	65%	31%	2%	2%		96%	96%
		職員	67%	33%	0%	0%		100%	96%
24	教職員は、子どもの気持ちを受け止めてきめ細かく対応している。	保護者	65%	31%	2%	2%		96%	98%
		職員	64%	36%	0%	0%		100%	96%
25	教職員の言葉遣い・態度など、職業人としてのマナーは適切である。	保護者	65%	33%	0%	2%		98%	94%
		職員	36%	58%	6%	0%		94%	93%

VI 児童・生徒

番号	評価項目	回答者	A	B	C	D	無回答	H30	H29
								肯定的評価	肯定的評価
26	子どもは、「今日に満足し、明日を楽しみに待つ」学校生活を過ごせている。	保護者	72%	20%	4%	4%		92%	88%
		職員	53%	47%	0%	0%		100%	96%
27	子どもが、自分からやろうとすること（自分でやりたいと思うこと）が増えてきている。	保護者	59%	27%	12%	2%		86%	88%
		職員	52%	48%	0%	0%		100%	96%
28	子どもに、挨拶や着替え、社会のルール、働くことの意義など自立するために必要な力が身に付いてきている。	保護者	43%	47%	8%	2%		90%	82%
		職員	42%	58%	0%	0%		100%	100%

VII 附属の役割

番号	評価項目	回答者	A	B	C	D	無回答	H30	H29
								肯定的評価	肯定的評価
29	研究校として、実践的研究を行い、有用な取り組みを外部に発信している。	職員	41%	53%	6%	0%		94%	97%
30	県内や地域における特別支援教育の推進に努めている。	職員	25%	47%	28%	0%		72%	78%
31	大学や教育学部と連携が図られ、お互いに必要な関係となっている。	職員	22%	53%	25%	0%		75%	83%
32	教育実習生に必要なかつ適切な指導を行い、有為な教員養成を行っている。	職員	36%	64%	0%	0%		100%	86%

